

ご家庭のネット環境整備へのご理解・ご協力のお願い

先日、ニュースで、インターフォンとスマートフォンを連動させて外出先から宅配業者とのやり取りをしている映像を見ました。「えっ？そんなことできるの？便利だなあ。」と驚くと同時に、社会の変化についていけるだろうかとなかなか焦りも覚えたことです。子供たちが社会に出る頃には、もっとＩＣＴ技術が進歩し、それらを活用して働いたり生活したりすることになります。日々進化する情勢の中で生き抜いていくためにも、これからの情報化社会・デジタル社会に主体的に対応できる子供を育成することが学校教育においても求められています。



現在、いわゆる「GIGA(ギガ)スクール構想」により、子供一人一台のタブレット端末を活用して、様々な教科・領域等での授業が展開されています。GIGAスクール構想とは、Global and Innovation Gateway for ALLの頭文字を取った言葉で、すべての児童生徒に一人一台のタブレット端末と高速ネットワーク環境を整備することを指します。本校でもその活用方法及び運用方法が少しずつ進んでいるところです。以下、現在の状況や今後の方向性についてお知らせします。

学校では教育の情報化、デジタル化に向けて、子供たちに「確かな学力」を育成するために、従来の「アナログ学習」を基盤にして、デジタル・AI教材を活用した「デジタル学習」が加わるようになりました。具体的には、これまで私たちが活用してきた紙の漢字ドリルや計算ドリルに加えて、「デジタルドリル」を活用した学習指導も行うこととなります。香南市では、ベネッセの「ミライシード」というデジタル教材のなかの「ドリルパーク」と言われるドリル学習に取り組んでいます。これまで教師は、すべての子供たちに同じ学習プリントを配付して学習指導をしてきました。その後、教師が一人一人のプリントを採点し、その結果を踏まえて次の日等に個別指導を行って来ました。これが従来のアナログ学習のスタイルです。デジタル教材を導入すると、子供たち一人一人に応じた学習指導がその場で展開できるようになります。問題に正解すればさらに難易度の高い問題が提示されます。間違えるとAIがその結果を判断して基礎問題を提示して取り組めるようになります。いわゆるこれが「個別最適化された学習」（アダプティブ・ラーニング）といえます。更に一人一人の子供たちの学習状況はAIが自動採点、集計して教師に提示することになっています。私たちが子供の頃には想像もできなかった学習システムで学習指導が展開されていくことになります。



7月上旬に香南市教育委員会からお知らせがあったように、一人一台のタブレット端末の持ち帰りが始まりました。夜須小学校でも、1学期中に1回以上の持ち帰りを行いました。今回は、ネットに接続しない「オフライン」での宿題となりましたが、今後は、ネットに接続して「オンライン」での家庭学習も予定しています。

冒頭の宅配業者とのやり取りだけでなく、家電製品もスマートフォンと連動した機能が次々に出てきています。ぜひ、この機会に、ご家庭のネット環境についてお考えいただき、環境整備等につきましてご協力いただけるとありがたく存じます。

ただし、このタブレット端末を使った学習は当然よいことばかりではありません。健康被害やネットでの被害等も含めて、タブレットの正しい使い方や利用時間、メディアリテラシーについても学校では指導しています。今後、学校だよりや学級通信、保健だより、学級懇談会等で現在の状況や今後の方向性についてお知らせしていきますので、ご理解ご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い致します。